

老朽化やテロへの対策が求められる欧州原発

◆老朽化した原発の安全性を懸念し、隣国が運転停止を要求

地続きの欧州では、隣国との電力の融通が容易にできるメリットがある一方(図1)、国境を接する地域では原子力発電所への不安が広がっている(図2)。

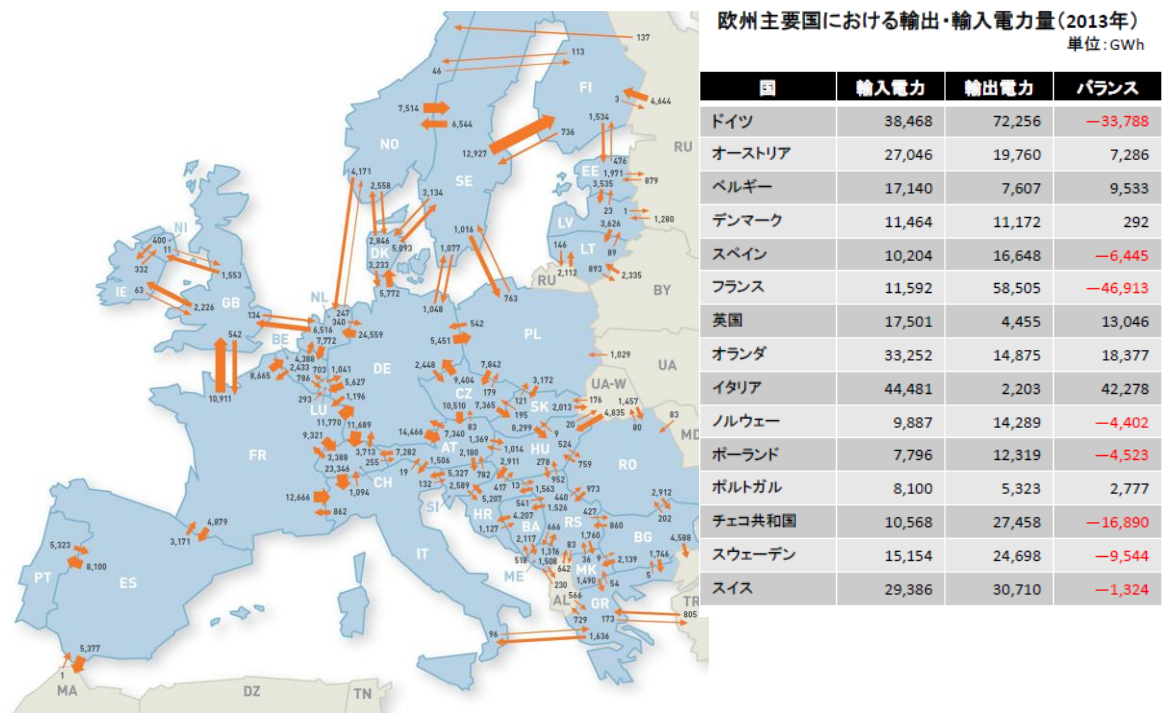


図1 欧州主要国における輸出・輸入電力量(2013年) 単位 GWh
出所: 経済産業省 新エネルギー小委員会 欧州調査報告 平成 26 年 REE, “2013 Spanish Electricity System”

ドイツの環境相は 2016 年 4 月、ベルギー政府に対し、国境に近い南部ティアンジュ原発 2 号機と北部ドール原発 3 号機の運転停止と詳細な検査を求めた。ルクセンブルク政府も同様の要望をだしている。2 基は 80 年代に稼働し、12 年の定期検査で原子炉圧力容器の内側に多数の微細なひび割れが見つかった。15 年 2 月のベルギーの発表によれば、ひび割れは 2 基合計 1 万 6 千カ所以上、破損などの事故も多発している。同国には 7 基の原子炉があり、発電量に占める割合は 5 割近い。



図2 隣国から閉鎖を求められている原発

表1 EU原発稼働国の原発依存度
2014年時点

国名	原発依存度
フランス	76.9%
スロバキア	56.8
ハンガリー	53.6
ベルギー	47.5
スウェーデン	41.5
スロベニア	37.2
チェコ	35.8
フィンランド	34.6
ブルガリア	31.8
スペイン	20.4
ルーマニア	18.5
イギリス	17.2
ドイツ	15.8
オランダ	4.0

出典：World Nuclear Association
“Nuclear Power in the European Union”

25年までに全原発を段階的に閉鎖する方針だが、代替電源の確保の遅れから稼働期間を16年1月に10年延長している。ドール原発から国境まで数キロのオランダ政府は4月、ベルギー原発事故に備え、被曝による甲状腺がんを防ぐ効果があるとされる安定ヨウ素剤の配給対象区域を、半径20キロ内から100キロに拡大すると発表した。

原発大国フランスへの視線も厳しい。ドイツは3月、国境に近いフェッセンハイムにあるフランス最古（77年稼働）の原発の閉鎖を要求した。ドイツとルクセンブルクの国境に近いカットノン原発については、ルクセンブルク首相が4月のフランス首相との会談で、「カットノン原発で問題が生じればルクセンブルクは消滅する恐れがある」

とし、閉鎖事業への資金拠出にまで言及し、ドイツの緑の党も閉鎖を要求している。

また、スイスのジュネーブ州は3月、隣接するフランスのビュジェ原発を「生活の安全を脅かされている」として、フランスの裁判所に閉鎖を求め提訴した。

◆現実味を帯びたテロへの懸念が不安を増幅

ベルギーやフランスの原発への不安が高まる理由は、老朽化に加えてテロへの懸念がある。ブリュッセルとパリのテロへの関与が疑われる男がベルギーの原子力関係者を撮影していたり、原発の警備員が殺害され通行証が盗まれるなど、原発がテロのターゲットになっていたのではないかと報じられている。フランスのビュジェ原発など原発施設上空を飛行する正体不明のドローンも確認されている。

15年10月、英王立国際問題研究所は、世界の原発のサイバーセキュリティの脆弱性を指摘する報告書を出し警告している。老朽化に加え、テロ対策の面でもより厳しい安全性の確保が求められている。これは欧州だけの問題ではなく、世界の国が直面している問題だと言えよう。

【赤山英子】